

No. 95

2015年 (平成27年)
3月1日

発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
片桐 淨 映

ひかり

亡きあとに
軽を尋ぬる人あらば
弥陀の浄土に
行ったと答えよ

妙好人 六連島のお軽



第20回 日高組真宗法座

阿弥陀経に聞く

「舍利弗、まさに知るべし、われ五濁悪世においてこの難事を行じて、阿耨多羅三藐三菩提を得て、一切世間のために、この難信の法を説く。これを甚難とす」と、舍利弗に「於汝意云何」と呼びかけられた処が二ヶ所あって、そこに大切なことが説いてあると前にいきましたが、これも「まさに知るべし」というお言葉があります。これもこのお経の要所です。そして、ここには成仏の難と、説法の難が繰り返して説かれ、出世本懐の経であることを彰わされているのです。「小経」の結びです。

「仏、この経を説きたまふ(100回)」
流通分です。おシャカ様の一代の結びがこの経なのです。

(ア) 聴聞の人を挙げる
「舍利弗およびもろもろの比丘、一切世間の天・人・阿修羅等」

舍利弗に対してお話をしていましたが、一切世間等とはここで聴聞した人を指しています。菩薩のお名前がありませんが、序分には「もろもろの菩薩摩訶薩」とあり、「一切」に聴聞したすべての人々が含まれています。

(イ) 法を信受したことを明す
「仏の所説を聞きて、歡喜し、信受して、礼をなして去りにき」

阿弥陀経の結びは、祇園精舎に集まっておシャカ様のお説法を聞いていた菩薩さまや天の神々や六道の阿修羅までも、この法を聞いて歡び信じて、礼拝して帰った。あなたは信心歡喜しましたか。

親鸞聖人の真宗は、信心の宗教です。お経が終わっておしまいということではありません。お経のいわれを聞いて聞信するのです。

真宗のお勤めの後には必ず法話があります。お経でおシャカ様のお説法を聞いて、うなずけることが大切なのです。

(永原智行)

子ども達のつぶやき

私が勤めている御坊幼稚園は、大正四年に創立され、今年四月に百周年を迎えます。親鸞さまのみ教えを保育の基盤としている幼稚園です。

全園児は、親鸞さまのご命日に本堂参拝をして、阿弥陀さまのお話を聞きます。もみじのような小さな手をあわせ、きちんと正座をして大きな声でお勤めをしたり、ののさまの歌を歌ったりします。

昨年夏の本堂参拝でのごと、朝から蒸し暑くて思わず、「暑いなあ、あついなあ」と私がぼやくと、となりでそれを聞いていた年長組の男の子が、「ののさまも暑いやろなあ」とお木像を見てつぶやきました。一般の幼稚園と違って、子ども達

のつぶやきも違います。

ある寒い冬の日のこと、朝から年長組の女の子が職員室に飛び込んできました。「大変や、大変や、親鸞さまが風邪ひいて鼻水たらしてる。早よ見に来て!」と、本堂の前にあるお銅像の鼻を見ると鼻水を流しているように見えます。この子にとって親鸞さまは生きているのです。

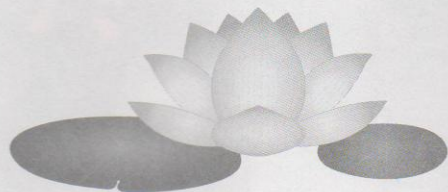
年中組の女の子のおばあちゃんが亡くなりました。「おばあちゃんは、お浄土にいったんやで」とつぶやき、周りにいた大人達が驚き感心したそうです。「浄土のある考え方の豊かさよ無に帰すことのなんと寂しき」と詠まれた方がいらつしやいます。

職員室にふらっと入ってきた年中組の男の子は、鼻歌を歌うように、「なーもあーみだああんぶー、なーもあーみだああんぶー」と

つぶやいています。

阿弥陀さまに想いを寄せ、親鸞さまに想いを寄せ、浄土に想いを寄せる子ども達です。阿弥陀さまは、子ども達の感性を豊かに育ててください。

※ののさま…阿弥陀さまのこと
(菅原吉人)



クイズ悦法

浄土真宗の念仏はどれでしょう?
次の1~3の中から一つ選んで番号を書いてください。

1. 仏さまの救いを喜び、感謝して称える
2. 合掌の姿勢で、声を出さず静かに仏さまを念じる
3. 仏さまに届くようにと、一生懸命に心を込めて称える

94号の正解は、
「3. 仏様のお心を自らの生きる依り所にしてもらうため」でした。
正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

- | | |
|------------|------------|
| 由良町 坂田ひろ美様 | 御坊市 塩田 廣一様 |
| 由良町 小林 民子様 | 南丹市 佐々木磨美様 |
| 由良町 岩崎 信子様 | 亀岡市 佐々木信三様 |

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想・ご意見等を明記の上、下記までお送りください。

〒649-1223
日高郡日高町小浦195
円行寺内 日高組事務所

※抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。

※締め切り日
平成27年5月20日(必着)

※発表は次号

第9期日高組 連研が始まる

日高組主催、第9期となる門徒推進員養成連続研修会が、昨年12月14日に開催された真宗法座での開講式を皮切りに始まりました。

第1回は由良町阿戸の教専寺に於いて開催され、受講者28名が参加しました。

まずオリエンテーション、真宗入門(浄土真宗の教章)について学び、仏教讃歌(真宗歌・恩徳讃)を練習しました。

そして「連研のねらい」でもある「話し合い法座」について説明がなされ、受講者に話し合い法座を実際に体験していただきました。日高組では、今後28年12月までの2年間に及ぶ連研を、偶数月の第1土曜日を中心に合計12回開催し、おつとめの練習、教学・伝道の学び、話し合い法座を通

じて門徒推進員養成につとめてゆくこととなります。

なお、第2回連研は4月4日(土)1時半から小浦円行寺で開催予定となっております。

少しでも興味のある方は、2回目以降からの受講も受け付けておりますので、日高組事務所(642977)までお問い合わせください。

門徒心得

「法名」と「戒名」は
違うの？

浄土真宗の門信徒は「法名」と言います。

臨終修行(枕経)時、お勤め中にご遺族らが「戒名付けてもらわんとな…」と、ぼそぼそ話す声が聞こえてくる場合があります。

「法名」と「戒名」は、いずれも仏教徒としての名前を表す言葉ですが、浄土

真宗では「法名」、他宗では「戒名」と言います。

戒名は、仏教の戒律(規律)を守り仏道修行する人々に与えられた名前です。それに対し、浄土真宗は、

必ず救い浄土へ迎えるとの阿弥陀如来のはたらき、仏法に帰依した者に与えられる名前で「法名」と言います。

帰依とは、信じ、よりどころとすることを言います。

また、浄土真宗のみ教えは、等しく救いお浄土に導いて下さるみ教えですから、「釋○○」の二字の法名以外に「信士・信女・居士・大姉」などの位を表す位号は付けません。

葬儀に際し、所属寺の住職さんから法名を付けていただくこともあります。法名はできれば今のうちに「帰敬式」(おかみそり)を受け法名をいただいでおきましょう。

既に法名をいただいで居

られる方は、法名の置き場所を確認され、家族に知らせておきましょう。

亡くなった際に自分が「私の法名はこれです」と差し出すことはできませんよ。

ちなみに、浄土真宗では「位牌」は使いません。「過去帳」を用い法名・命日など記入しましょう。

(鈴木悟峰)

読者の声

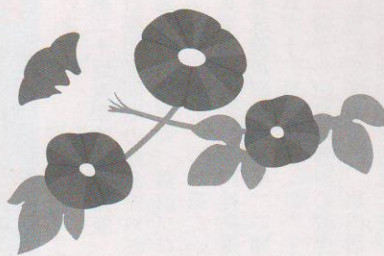
※年中で最も快適な時候を迎えました。今日午前お寺の報恩講にお参りさせていただき、ありがとございました。帰り際にひかり94号とクイズ正解の品を受け帰宅しました。クイズの正解は「お経の本は畳に直接置かない」で私は正解でしたが、今日途中まで実行できなくて何事も頭で解っていてもしっかり実行する難しさを反省しております。

※浄土真宗の簡単な作法をもっと門徒の方々に知っていただきたく思います。間違っている方を時々みます。

ご指導をよろしく。

※ひかりの法悦クイズ、楽しみに参加させて頂いています。

※「地獄極楽」非常に解りやすく読ませていただきました。



和歌山教区寺族婦人会連盟 三十周年記念大会を終えて

平成二十六年十二月二十二日、本願寺鷲森別院において和歌山教区寺族婦人会連盟の三十周年記念大会が行われました。大会テーマは「お寺の女性の生き方」です。

開会式の献花献灯は各組から一名の寺族女性の参加で、日高組からは善宗寺の鈴木真由さんがお役を務めて下さいました。記念講演では仁愛大 学講師 仏教研究科の都路恵子さんが「聴くこと 生きること」というテーマでお話をして下さいました。寺族女性としてのみならず一人の女性としてどのように生き、どのように人生を終えるのかを自問することで生き方の方向性が明確になり、この時代の急激な変化の中でも柔軟に対応できる自信になるのでは、という大変興味深いお話でした。アトラクションでは鷲森幼稚園の園児の皆さんが「ひびけ!さぎのもり太鼓」を披露してくれました。かわいらしい法被姿で元気に太鼓をたたき様子を、観覧の皆さんは目を細めながら大きな拍手を送りました。続いて、かりようびんが鷲森の皆さんによる仏教讃歌で幕を閉じ、閉会式となりました。また、本大会を機縁に連盟

の名称が「寺族婦人会連盟」から「寺族女性会」に変更になりました。一人でも多くの寺族女性の参画と、本会の充実を願う意味が込められています。

最後に、三十周年という記念の年に、委員の一人として本大会に参加し、貴重な体験をさせていただきましたご縁をありがたく思います。
(荻野由美子)

日高組総代会 後期研修会

平成二十七年一月二十四日 由良町蓮専寺に於いて二十六年、日高組後期研修会が四十名の責役・総代・住職が参集し、講師に蓮専寺ご住職 岩崎法明師を招き、和歌山教区基幹運動推進委員会編集発行の「阿弥陀さまと私」を教材に開催されました。

葬儀に関しては、この世の別れの寂しさ、悲しみが先立ち、現生正定聚の教えを頂く門徒と言いつつも死出の旅臨終を迎えたいから風俗や俗信に捕らわれた行為がなされていく場面が見受けられます。この研修を機会に、改めて

各寺院の総代さんから、門徒としてふさわしい阿弥陀さまのご法義が主体となる葬儀が行われるように心がけましょう。

葬儀に出会われたら、葬儀社さんに相談する前に、ご住職に相談しましょう。

仏壮後期研修会 「お念珠つくりⅢ」

日高組仏教壮年会は、十二月四日(木)夜七時より由良地区蓮専寺に於いて、後期研修会「お念珠つくりⅢ」を開催いたしました。

本年度で三回目となる当研修会は、十七名の参加者と、二年前に指導者としておいでいただいた蓮専寺門徒、広川在任の片岡勝巳さんを招き、六本房の編みこみに苦勞するも、一生大切にお持ちいただけるお念珠を作りました。

初めに、片桐組長より「お念珠は仏教徒にとって大切なお仏具です。自分で作った愛着あるお念珠で、

どうか仏縁にふれてください」と挨拶がありました。



日高組通信

☆行事報告

・第二十回真宗法座を開催
日高組御同朋の社会をめざす運動(実践運動)重点プロジェクトの柱の一つ、第二十回真宗法座と第九期門徒推進員養成連続研修(連研)の開会式が十二月十四日(日)午後二時から由良町阿戸の教専寺に於いて開催され、組内僧侶・門信徒の方々約九十名が集まりました。

今年は大阪教区の釈 徹宗師(相愛学園教授)をお迎えして、「仏道としての浄土真宗」のお話を熱心に聴聞いたしました。

法座では、正信偈の「三不信の誨、慙慙にして、像末法滅同じく悲引す」をひかれ落語の「こんにやく問答」を例にあげられました。

必ず浄土に救うという阿弥陀如来のおこころを純粹素朴(淳信)に疑いなく(二信)聞き、それらを継続してゆく(相続信)ことの大切さをわかりやすく学ばせて頂く聴聞の集いとなりました。

☆行事予定
・実践運動推進委員会
日時 三月七日(土)

午後二時
会場 小浦 円行寺
平成二十六年年度の総括と平成二十七年年度の計画について協議いただきます。委員各位にはご出席をお願いいたします。

・日高組定期組会
日時 三月二十八日(土)
午後二時

会場 志賀 即生寺
組会に先がけ、寺族、門徒総代、責任役員の物故者追悼法要を行います。

その後、平成二十六年年度の事業報告・決算報告、次年度の事業・予算について、ご審議をお願い致します。

各寺院の組会議員の皆様方のご出席をお願いいたします。

・第二回連研開催
日時 四月四日(土)
午後一時三〇分
会場 小浦円行寺

住職在職五〇年表彰

永きに亘って寺門興隆に尽力された功績により、ご本山より表彰を受けました。

- 宝國寺住職 林 英雄師
- 円明寺住職 湯川信隆師